

八月一日 一命令

晴 一六日左記命令ヲ下達ス

小倉

陸軍衛生常長 的野武生

任陸軍衛生准尉

二 陸軍衛生准尉 的野武生

補第百五師團野戰病院尉

(八月一日西軍發令)

三 陸軍軍醫中尉 小池誠之

石川中尉入院不在間業務主任代理ヲ命ス

二 衛生材料

一 待命間治療用藥物並消耗品トシテ研膏十一莫

佛出ス

二 兵員保健ノタメ、クレオソールト九ニエロ管支給ス

三 衛生

陸軍中尉石川恭輔、急性腸炎ニ患小倉陸軍病院 入院ス	本日總員三六四名	八月二日 一命令	晴 一六日左記命令ヲ下達ス	小倉 陸軍軍醫大尉 岩崎太郎 任陸軍軍醫少佐 (八月一日附内閣)	陸軍主計軍曹 後夙貞告	酒保品取得多明八月十日歸隊ノ豫定以テ福 岡市ニ出張ヲ命ズ	二教育	自七月下旬 待命間教育別紙第一ノ通實施ス 至八月二日 自八月三日 待命間教育計畫表別紙第二ノ如シ 至八月九日	本日總員三六四名
------------------------------	----------	----------	---------------	-------------------------------------	-------------	---------------------------------	-----	---	----------

0039

八月三日

一命令

晴

一六〇左記命令ヲ下達ス

小倉

待命間暇第二二五二部隊防衛計畫別紙、通定ハ

別紙傳スルシ

二敎育

一兵士等出立勤勞者(食)補滿教育計畫表別紙第

四〇如シ

本日總員三六四名

八月四日

一行事

晴

一〇九〇リ勅諭奉讀式整病院長訓話ヲ實施ス

小倉

二防空訓練

二命令

一六〇左記命令ヲ下達ス

陸軍療養部 坂田滿男

陸軍療養部長 瓜生正教	陸軍衛生兵長 山本築治	物品購入タメ本日即日歸隊豫定以下開市へ出張ヲ命ズ	三 衛生材料	衛生材料飲品中追送品トシテ病床日誌一號紙ニ	一〇枚通紙紙三七〇枚小倉陸軍上病院ヨリ受領ス	四 元々西軍管區警戒報(第一種)發令セラル	一 部隊行動ノ概要	二 病院ニ直ニ自家防衛計畫ニ據ル警戒態勢ニ移ル	三 衛生材料警戒ノ方針將校以下四三名小倉陸軍病院	ノ派遣ス	三 警備隊警戒援助タメ下士官以下十名派	遣ス
-------------	-------------	--------------------------	--------	-----------------------	------------------------	-----------------------	-----------	-------------------------	--------------------------	------	---------------------	----

0041

六二〇〇警戒戒警報解除平常ニ復ス

本日總員三六四名

八月五日

一命令

六〇〇左記命令ヲ下達ス

小倉

陸軍主計中尉

城久

業務連絡ヲ明八月六日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ福

岡市西郡軍司令部人出張ヲ命ス

二衛生材料

部隊是數外携行衛生材料トシテ酒精他ニ十七英

購入ノ別紙第五ノ如シ

三被服

西郡軍經理部小倉出張所ト連絡編上靴一三六組

第二回不合品交換ヲ實施ス

本日總員三六四名

0042

小倉	八月七日	晴	一 時刻及場所 九時 舍前	二 出 場 者 將校以下全員(除勤務者)	三 服 装 軍務重裝シテ略操佩用トス	四 隊 形 東南ノ建制順序	五 指揮 官 官内中尉	六 明八月七日別紙計畫表基キ八時市七條方面	七 終日行軍要旨ヲ	八 別紙第六ノ如シ	九 八月五日命令第一項ハ削除ス	一〇 衛生材料	一一 兵員保健ノ方々ノ事トシテ九二二ノ旨支給ス	一二 本日總員 三六四名	一三 一 行 事	一四 絡日行軍	一五 六命令ナシ
----	------	---	---------------	----------------------	--------------------	---------------	-------------	-----------------------	-----------	-----------	-----------------	---------	-------------------------	--------------	----------	---------	----------

0044

陸軍

二衛生材料

郵政待命用衛生材料ト別紙第七衛生材

料受領ス

三播磨橋鐵橋修理費實施ス

二教育

自八月九日待命間教育別紙第八通實施ス

自八月十日待命間教育計畫表別紙第九如シ

本日總員 三六三名

八月十日

一命令

一六日左記命令ヲ下達ス

小倉

一

本職

業務連絡ニ多明八月十日即日歸隊豫定ヲ以テ

福岡市南郡軍司令部ハ出張ス

二

0046

藥劑部兵一五名 左記教育ヲ實施ス	調劑處方録ノ整理ニ就テ	製劑「プロセント」ノ見出方及膏藥ノ製法ニ就テ	衛生材料ノ名稱解説及使用法ニ就テ	教官 坂田軍曹	三二二〇警式警報(第一種)發令セラル	一部隊行動ノ概要	病院直自隊防衛計畫ニ據ル警戒態勢ニ移ル	衛生材料警戒ノ多ク將校以下四五名小倉陸軍病院 院へ派遣ス	警備隊消火要員援助ノ多ク下士官以下一 六名派遣ス	四二二五空襲警報發令セラル	直自隊防衛計畫ニ據ル態勢ニ移ル
------------------	-------------	------------------------	------------------	---------	--------------------	----------	---------------------	---------------------------------	-----------------------------	---------------	-----------------

0047

陸軍

	<p>6日 空襲警報解除 警戒態勢ニ移ル 7日 空襲警報解除 平常ニ復ス</p>
	<p>ニ 被害ノ状況 ナシ</p>
	<p>ニ 建物資材 被害 ナシ</p>
	<p>四 其他</p>
	<p>本館 警報解除後 改善資材ニ注意。各務 態勢強化ニ努ム</p>
	<p>本日 總員 三六五名</p>
<p>八月十日</p>	<p>一行 事</p>
<p>晴</p>	<p>防空 訓練</p>
<p>小倉</p>	<p>ニ 命令 ナシ</p>
	<p>ニ 教育 (藥劑部關係) 兵七名</p>
	<p>ニ 調劑ノ實習費 藥日計 整理ニ就テ</p>
	<p>ニ 製劑 豆乳製法ニ就テ</p>

0048

三 教育 (藥劑部関係) 兵七名	一 調劑實習	二 製劑 石炭酸水、ブー液、重曹水、豆乳の製劑	三 療工 急造播架の製作 兵七名	療工用修理材料器械の實務教育	修理品作業見學	本日總員 三六四名	八月十五日 一行事	晴 防空訓練	小倉 二命令ナシ	三 衛生	兵一名 カル性黄疽ニ依リ入院中、處本日治癒	退院ス	四 教育 (藥劑部関係) 兵七名
------------------	--------	-------------------------	------------------	----------------	---------	-----------	-----------	--------	----------	------	-----------------------	-----	------------------

0051

ハ調劑ノ實習

ニ製劑 食塩水、ブトル磷酸水、ブロー液ノ製劑

ニ療工 研磨 鍍金ノ實習 兵五名

本日總員 三六五名

八月十六日 一命令

晴 一六〇日左記命令下達ス

小倉 八月主要行事豫定表別紙ノ通り配布ス別紙第

十ノ如シ

ニ野戦病院命令於 昭和十九年八月十六日一六〇
小倉市東三ノ警備隊内

ニ第百三師團野戦病院ハ西軍作命第三四ニ號

ニ依リ小倉陸軍病院診療業務援助ヲ命セラル

ニ病院ハ一部以テ小倉陸軍病院診療業務ヲ援助

セトス

3. 別紙人名表ノ人員ハ明八月十七日ヨリ小倉陸軍病院

0052

診察業務ヲ援助スヘシ 終期ハ別命ス	細部ニ関シテハ 庶務主任ヲシテ指示セシム	予ハ簿子ヲ整備家野戰病院本部ニ存	簿百三師團野戰病院長 若將少佐	下達法 各部隊各隊ノ命令受領者ヲ集メ口達筆記 セシム	三教育	自八月十日 至八月十六日 待命間教育別紙第十一ノ通實施ス	自八月十七日 至八月廿三日 待命間教育計畫表別紙第十二ノ如シ	藥劑部關係 兵十一名	調劑實習	製劑ブ口シ液 石炭酸水 食塩水 製劑實習	倉庫物休板整理	療工 研磨 鍍金 鍛造 木工 板金 細工 實習
----------------------	-------------------------	------------------	--------------------	-------------------------------	-----	---------------------------------	-----------------------------------	---------------	------	----------------------	---------	-------------------------

0053

陸軍

	八月十七日	晴	小倉	本日電員 三六五名	一行事	防火訓練 (消防器具整備)	小倉	二命令ナシ	三教育 藥劑部関係 兵七名	八調劑 實習	二製劑 下口液 食塩水ノ實習	三療工 兵七名	研磨 鍍金板金細工 實習
	八月十八日	晴	小倉	本日電員 三六五名	一行事	防火訓練 (消防器具整備)	小倉	二命令ナシ	三教育 藥劑部関係 兵七名	八調劑 實習	二製劑 下口液 食塩水ノ實習	三療工 兵七名	研磨 鍍金板金細工 實習
	八月十七日	晴	小倉	本日電員 三六五名	一行事	防火訓練 (消防器具整備)	小倉	二命令ナシ	三教育 藥劑部関係 兵七名	八調劑 實習	二製劑 下口液 食塩水ノ實習	三療工 兵七名	研磨 鍍金板金細工 實習
	八月十七日	晴	小倉	本日電員 三六五名	一行事	防火訓練 (消防器具整備)	小倉	二命令ナシ	三教育 藥劑部関係 兵七名	八調劑 實習	二製劑 下口液 食塩水ノ實習	三療工 兵七名	研磨 鍍金板金細工 實習

0054

三衛生

山田衛生曹長火腸炎、疑ニテ小倉陸軍病院ニ臨
時入院ス

本日總員三六四名

八月三日

一命令ナシ

晴

特記事項ナシ

小倉

本日總員三六四名

八月四日

一命令

晴

一日口左記命令下達ス

小倉

陸軍軍醫中尉

石川恭輔

同

小池誠之

業務連絡ノ夕、明八月二十五日即日歸隊ノ豫
定ヲ以テ福岡市西部軍司令部へ出張ヲ命ス

本日總員三六四名

小倉	八月十五日	晴	一命令ナシ
小倉	八月十五日	晴	二衛生材料
小倉	八月十五日	晴	兵員保健ノタメ南京蒸取粉三二箇支給ス
小倉	八月十六日	晴	本日總員三六四名
小倉	八月十六日	晴	一命令ナシ
小倉	八月十六日	晴	二衛生材料
小倉	八月十六日	晴	兵員保健ノタメクレオソールト丸一一口筒支給ス
小倉	八月十七日	晴	本日總員三六四名
小倉	八月十七日	晴	一命令ナシ
小倉	八月十七日	晴	特記事項ナシ
小倉	八月十七日	晴	本日總員三六四名
小倉	八月十七日	晴	一命令
小倉	八月十七日	晴	一六〇日左記命令下達ス
小倉	八月十七日	晴	陸軍軍醫中尉 小池誠史

0057

庶務主任代理ヲ免ス

三 衛生材料

月例身体検査、夕々稀酒精ニヨリ瓦拂出ス

三 衛生

相良見習士官肺油浸、疑ニテ小倉陸軍病院

ニ臨時入院ス

本日總員三六三名

小倉

一 命令

晴 天、左記命令下達ス

小倉

一 本職業務連絡、夕々本二十九日即日歸隊、後

定ヲ以テ福岡市西部軍司令部ニ出張ス

陸軍藥劑中尉 權藤 徹

業務連絡、夕々本二十九日即日歸隊、後定ヲ以

テ福岡市西部軍司令部ニ出張ヲ命ズ

八月三十日	本日總員三六三名
晴	一命令
小倉	二六〇〇左記命令ヲ下達ス
	陸軍衛生曹長 下田七郎
	業務連絡ノタメ本三十日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ西
	部軍司令部ニ出張ヲ命ス
	二教育
	自八月二十四日 待命間學術科計畫表別紙第
	至八月三十日
	十三ノ如シ
	自八月二十四日 待命間教育豫定表實施表別
	紙第十四ノ如シ
	三衛生材料
	待命間治療用トシテ巻軸帶三巻 グレゾール
	五〇〇瓦 再製ガ―セニ〇〇瓦再製表脱胎綿ニ〇〇瓦

0059

別紙第一

日二月八 水		日一月八 火		日一十月三 月		日一十月三 日		日九十二月 土		日八十二月 金		日七十二月 木		待命間教育計畫 實施豫定表
施實	定豫	施實	定豫	施實	定豫	施實	定豫	施實	定豫	施實	定豫	施實	定豫	
右 實 施	綜合訓練 馬術訓練	火線救護 野戰勤勞 步兵騎重兵 衛生兵戰時衛生要務	火線救護 三角中隊 野戰勤勞	右 實 施	現代用馬 現場檢水及 給水	火線救護 野戰勤勞 衛生部皮膚膏 血液循環	火線救護 野戰勤勞 衛生部皮膚膏 血液循環	火線救護 野戰勤勞 衛生部皮膚膏 血液循環	火線救護 野戰勤勞 衛生部皮膚膏 血液循環	火線救護 野戰勤勞 衛生部皮膚膏 血液循環	火線救護 野戰勤勞 衛生部皮膚膏 血液循環	火線救護 野戰勤勞 衛生部皮膚膏 血液循環	火線救護 野戰勤勞 衛生部皮膚膏 血液循環	午前 自二時 至三時
右 實 施	游泳演習	遭難訓練 陸軍刑法懲罰令	遭難訓練 陸軍刑法懲罰令	右 實 施	遭難訓練 船上監視要領	遭難訓練 船上監視要領	遭難訓練 船上監視要領	遭難訓練 船上監視要領	遭難訓練 船上監視要領	遭難訓練 船上監視要領	遭難訓練 船上監視要領	遭難訓練 船上監視要領	午後 自三時 至四時	
體 操	馳走 游泳	長距離 馳走實施	長距離 馳走實施	馳走 游泳	馳走 游泳	馳走 游泳	馳走 游泳	馳走 游泳	馳走 游泳	馳走 游泳	馳走 游泳	馳走 游泳	體 操	

別紙第二

昭和十九年自八月三日至八月九日學術科教育計畫表

隊第一二五二一部隊

日分	午前	午後
八月三日	精神講話(忠節、愛國) 一時間	野戰病院開設當初各部に於て實施すべき事項並に主要業務 (三時間)
八月四日	射撃奉讀式 (於今前 三〇分間)	野戰病院開設當初各部に於て實施すべき事項並に主要業務 (三時間)
八月五日	射撃奉讀式 (於今前 三〇分間)	野戰病院開設當初各部に於て實施すべき事項並に主要業務 (三時間)
八月六日	射撃奉讀式 (於今前 三〇分間)	野戰病院開設當初各部に於て實施すべき事項並に主要業務 (三時間)
八月七日	射撃奉讀式 (於今前 三〇分間)	野戰病院開設當初各部に於て實施すべき事項並に主要業務 (三時間)
八月八日	射撃奉讀式 (於今前 三〇分間)	野戰病院開設當初各部に於て實施すべき事項並に主要業務 (三時間)
八月九日	射撃奉讀式 (於今前 三〇分間)	野戰病院開設當初各部に於て實施すべき事項並に主要業務 (三時間)
備考	<p>一、午前中、各部員二十名、綜合教育トス</p> <p>二、藥劑部及治療部、九月五日(但し日曜を除く)迄、九月三日各一小倉隊軍病院に於て、教育ヲスル</p>	

0063

別紙第三

待命間駁第一三五二部隊防衛計畫

0064

待命間駁第三三三部隊防衛計畫

第一章 通則

第一條 西部第七〇九七部隊兵營内、於此待命間自

隊直接防衛ニ關シ必要ナル事項ヲ規定ス

第二條 當隊防衛ノ重點ハ自隊人員ノ待避所有兵

器衛生材料、被服糧秣ノ搬出有火救護

ニ指向スルモノトス

第三條 自隊防衛ノ責任ニ關シハ日直將校其ノ

責ニ任スルモノトス

第四條 防衛警報發令直後日直士官ハ別命

ナク命令受領者(日直下士)傳令(日直

上等兵)ヲ第七〇九七部隊週番司令ノ許

ニ差出スモノトス

第五條 前條從事者ノ服裝ハ別命ナキ限り編出

靴（又地下足袋）巻脚絆帶劍トシ左ノモ
携行ス

鐵帽防毒面綃帶包手拭筆記具

第六條 自隊防空ノ完備ヲ期スル爲メ指揮者ハ
常ニ森嚴ナル軍紀ヲ確立シ第一要義トシ
就中指揮ノ的確及統制ニ行動ヲ最モ
緊要重視スルヲ要ス

第二章 警戒警報

第七條 警戒警報發令セハ別命ナク全員編上
靴（又地下足袋）帶劍巻脚絆トシ小銃鐵
帽被甲携帶帶囊綃帶包ヲ準備シ班長
ハ副官（日直士官）ニ報告指示ヲ受ク

第三章 燈火管制

第八條 部隊内全燈ノ燈火管制ハ日直士官ノ責

0066

任トシ事務室及内務班各室ノ燈火管制ノ

責任ハ在室ノ先任者トシ之ガ警視ハ當該

週番勤務者ニ於テ實施スルモトス

第四章 防火用施設資材

第九條 部隊ハ左記標準以上ヲ常時完備シ空襲

時ニ於テ被害ノ軽減ニ努ムルモトス

左記

一 防空壕 (待避所)

第七〇九七部隊既施ノ舍前舍後ノ簡易待

避壕ヲ使用スルモトス

二 水

八量 建物延坪十五坪未満ハ百立(約五斗五升)

以上十五坪以上概テ十坪ニ付五十五(約二斗八升)

ニ容器桶ヲ使用スルモトス

3. 位置 何處ニ燒夷彈が落下スルニ直ニ開ニ合
フ所トス

三、砂

1. 量 一内務班ニ五十之(約三十斤)以上

2. 容器 箱

3. 位置 使用ニ便ニ各室ノ入口トス

四、延火ノ火蓋

1. 量 部隊ニ十枚以上

2. 位置 使用ニ便ニ水ニ近キ所

五、火叩キ 拾本

第五章 本部撤出救護警戒有防

第十條 空襲時本部消防班撤出班救護班ハ各

々協同シ自隊防衛ノ萬全ヲ期スルモノトス

其ノ編成表別表ノ如シ

0068

第六章 空襲警報

第十一條 空襲警報發令セシ全員縮上靴(地下足袋)

巻脚絆 帶劍トシ小銃鐵帽 被甲携行携

帶囊 縮帶囊 縮帶包ヲ携行豫テ示サ

レタル壕ハ各編成毎ニ待避シ副官(日直士官)

ニ連絡指示ヲ受クモトス

第十二條 防空壕使用區分左ノ如シ

本部撤出班ハ 豫備救護班 9.10.11.12 舍前

消火班 1.2.3. 救護班 7.8 舍後

第七章 雜則

第十三條 空襲時當番長ハ當番兵ヲ指揮シ將校者

舍監視ニ任ズルモトス

第十四條 營外者 退廳間警戒警報發令セラレタル

時ハ營外者當番ハ各營當宿舎迄ノ傳令

0069

自隊防衛編成表

考	備	救護班	搬出班	消火班	本部	區分
2. 本表ハ状況ニ依リ變更スルコトアリ	1. 細部編成ハ各主任者ニ於テ是ヲ置キトス	小池中尉	城ノ中尉	宮内中尉	石川中尉	主任將枝
		泉永少尉 五井田八相良 藤田三藤宮崎 井上三階波辺 見習士官	齊藤中尉 青木恒進黒湯 見習士官	田中見習士官 權藤中尉	河野中尉 西田少尉	附將枝
		第八内務班 第九〇・一・二 内務班	第七内務班	持山後夫桑原常吉 第四内務班	庶務勤勞者金員	准下士官兵差區分
		第二班 豫備班	第二班	隊内	第一班 下士官 兵 一九 ポンプ	捕要
				第三班 一 一〇	第二班 一 一四 給水	

0071

別紙第四

兵長(下士官勤務兵長)補備教育計畫表

方針	精神要素、滋養、基礎教育、重點、指向スルト共、實務實踐的應用能力、助長ニ勉ム					
月/日/分	課	目	教官	助教	間	稽古
八月四日 金曜	軍隊内務令 (特ニ内務班長職責ニ重點指シ)	小野准尉	平松伍長	號令調製		
八月八日 火曜	陸軍禮式令、軍機保護法 陸軍刑法及懲罰令	家永少尉	賀部伍長	同		
八月十日 土曜	作戰要務令 (特ニ一郡 三郡)	梶山准尉	屋田曹長	同		
八月十日 水曜	戰時衛生勤務ノ大要 (野戰病院ニ重點指シ)	西田少尉	下田曹長	同		
八月十一日 月曜	陸軍病院服務規則ノ大要	的野准尉	江藤伍長	同		
八月十三日 金曜	軍隊保育要領	青藤中尉	賀部伍長	右	同	
備考	一教育概テ毎日ニ時間トシ教育開始前勸諭、戰陣訓ヲ奉誦スル ニ間稽古ノ號令調製、教官八田中見士助教八福村曹長トス					

0073

別紙第五

部隊定数外携行衛生材料トシテ購入

陸軍

漏斗	2cc x2	ピペット 5cc x2	曲尺	グラインダー	皮裁丁	アルカミ 砥	二刃 鋸	引廻 鋸	金切 鋸弓	鉋	品目	器械	品目	藥物	品目	消耗品	
筒	筒	筒	本	台	〃	〃	〃	〃	〃	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒
二	二	二	一	一	三	三	六	六	二	一	一	一	一	一	一	一	一
						グリセリン	船月 エリウ	純酒精	ワセリン	酒精	酒精	酒精	酒精	酒精	酒精	酒精	酒精
						瓦	筒	〃	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦
						二五〇	五〇	一〇〇〇	五〇〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇
各助 放公 福村 小本	試験 管 本	〃 1/4	注射 針 1/3 打	油 砥 筒	革 縫 糸 杷	革 縫 針 本	木 槍 筒	丁 番 枚	掛 金 組	三角 針 筒	三角 針 筒	三角 針 筒	三角 針 筒	三角 針 筒	三角 針 筒	三角 針 筒	三角 針 筒
二〇	一〇	一	一	一	三	六	一	六	五	三	三	三	三	三	三	三	三

0074

終日行軍計畫表

考	備	八月 七日 曜日	八月 八日 曜日	月 日	目的	
<p>將校(含皇)ニ口 名准尉四名 下士官五名 兵二八四名 計三三三名</p>	<p>一 服装(上衣ヲ脱シタル略装ニシテ 雜褌(飯盒入組)水筒被甲鉄帽携行)</p> <p>二 第一中隊ハ小銃第二中隊ハ担架編成トス</p> <p>三 携行衛生材料 軍醫携帶褌一ニ具(皇)ニ 醫療褌 六具</p> <p>四 出場人員</p>	<p>只八口 魚所 大門 七條</p>	<p>北茨城野</p>	<p>時出 刻發 往 路 晝食地 歸路 時歸 刻營 行程</p>	<p>行軍軍紀並行軍力ヲ養成スルト共ニ炎熱下ニ於ケル行軍ニ耐ル 体力氣力ノ練成ニ在リ</p> <p>主要演練事項</p> <p>一 行軍間ニ於ケル連絡警戒</p> <p>二 行軍間ニ於ケル衛生勤務</p> <p>三 瓦斯防護(各個)</p>	
		<p>三六七條</p>	<p>七條</p>	<p>本城野 一六口</p>		<p>ニ口料</p>
		<p>七營</p>	<p>七營</p>	<p>七營</p>		<p>七營</p>
		<p>七營</p>	<p>七營</p>	<p>七營</p>		<p>七營</p>
		<p>七營</p>	<p>七營</p>	<p>七營</p>		<p>七營</p>
		<p>七營</p>	<p>七營</p>	<p>七營</p>		<p>七營</p>

0075

別紙第七

待命間用衛生材料受領品目表

陸

軍

薬物		消耗品		薬包紙		口品	
品目	数	品目	数	品目	数	品目	数
五鉛筆	丸	海人草	〃	薬包紙	枚	〃	〃
アミノリン	〃	安ナカ	〃	〃	〃	〃	〃
五〇〇	五〇〇	四〇〇	四〇〇	〃	五〇〇	〃	〃
フエバリ	筒	硫規錠	〃	〃	〃	〃	〃
五〇〇	五〇〇	五〇	五〇	〃	〃	〃	〃
ピラピタル錠	筒	赤	〃	〃	〃	〃	〃
一〇〇	一〇〇	五	五	〃	〃	〃	〃

0076

別紙第十六

第百三師團野戰病院將校職員表

病院長 陸軍軍醫少佐 岩崎太郎

附陸軍軍醫中尉 石川 恭輔

同陸軍主計中尉 城 戸 久

同陸軍衛生中尉 河野 辰 二

同陸軍軍醫中尉 小池 誠 之

同陸軍藥劑中尉 權 藤 徹

同陸軍軍醫中尉 育 藤 整

同陸軍中尉(齒科醫要員) 宮内 一 郎

同陸軍衛生少尉 西田 源 市

同陸軍齒科醫少尉 家永 須惠春

同陸軍少尉(齒科醫要員) 圖師 勝 哉

同陸軍衛生部(醫)見習士官 藤 田 亨

同同 青木 狷 介

同同 恒遠 雄 碩

同同 黒 瀉 毅

同同 玉井 良 男

同同 田代 祐

同同 相良 不器 見

同同 工藤 建 夫

同同 宮崎 壽 一 郎

同同 井上 保 雄

同同 二階 裕

同同 渡辺 定 男

同同 田中 介 二

同同 秋吉 哲 郎

同(陸軍衛生准尉) 小野 嘉 房

備考 一 齒科醫要員タル歩兵將校ニ名入近轉科豫定

二 (上) 八上級職ヲ示ス

別紙

小倉陸軍病院業務援助人名表

配属室	内科	傳染	外科	齒科	病理	要線	外科 (手術室)	衛生 材料科	自動車 班	計	業務	度
將	見士 齊木 朋介 同 相良 尔基光	見士 藤田 亨 同 玉井 良男	見士 宮城 善一郎 同 井上 保雄 同 田代 祐 同 渡辺 定夫	少尉 家永 須惠春	見士 二階 裕	見士 黒湯 毅	見士 恒遠 雄碩 同 工藤 建夫	見士 田中 介二 同 秋吉 祐郎		一五	患者收容隊	陸軍中尉 宮内 一郎
下士官	准尉 齊藤 幸男 任長 賀部 三郎	任長 高成 利平	曹長 久野 博 曹長 藤野 清 同 佐竹 善一 任長 有川 忠治 同 江藤 忠純			軍曹 戸田 八郎 任長 松尾 兼雄	曹長 坂田 満男 同 星 長 仙生 正敏			一 二 一〇 四	陸軍衛生中尉 河野 辰二 以下 二七名	以下 一〇八名
兵	一 二	一 一	二 七			一 三	一 九	一 一				本人員ハ必要ノ都 度協議連絡ノ上 配属スルノ事
摘要	一 部隊ノ教育訓 練勤勞其他 ノ行事ニ依リ余 ノ一部員更スル コトアリ											
	總計											
	一三一											

0086

陸軍

八月二十日敵機北九州地區空襲戰斗概要

一 部隊行動ノ概要

八月二十日一六時警戒警報(第一種)發令

二 病院八直ニ自隊防衛計畫書ニ據ル警戒態勢ニ移ル

三 衛生材料警戒ニ夕時將校以下四三名小倉陸軍病院

院へ派遣ス

四 八月二十日一六三〇空襲警報發令

五 直ニ自隊防衛計畫書ニ據ル態勢ニ移ル

六 一七〇敵三機編隊ヲ認ム引續キ斷續的ニ延約四十

機來襲ス

七 一八四九空襲警報解除警戒態勢ニ移ル

二 被害ノ状況

兵員及建物資材ハ被害ナシ

三 其他参考事項

0087